

TOLTA5

2011-2013年 ひらくと飛ぶ本を作るプロジェクト「トルタバトン」その記録と展開

「ひらくと飛ぶ本」とは何でしょうか。それをつくるとはどういうことでしょうか。トルタバトンというプロジェクトはこの間から始まったものです。プロジェクトを開始するとき、私たちは、その「本」が何であっても、それは、企画の考案者が予想できない方向へ「飛ぶ」ものでなければならぬと考えました。したがって、制作者はトルタがあらかじめ想定できる領域の外から来る必要があり、また、それぞれの制作においては、あらかじめ定められていない要素が本質的に組み込まれなければなりません。さらに、出来事に流動性を与えるために、プロジェクトが進行する過程で情報が流通し、あるいは錯綜することも必要でした。

この企画では、同時に、ある特定の場所で連続する時間に意味を持たせることも意図されていました。具体的にはそれは、トルタラボを自分たち以外の人に一時的に明け渡して空間を満たしてもらうことであり、それによってこの場所に「予想外のもの」を呼び入れることでした。右の欄に書かれている「ルール」はこれらの目的のために設定されました。

毎回のトルタバトン開始前には、ラボの中で制作

者の写真を撮り、WEBサイト tolta.tumblr.com で開始を告知しました。終了時間はあらかじめ打ち合わせておくのですが、制作中は、企画者である私たちは原則として制作者と直接のコミュニケーションはとりません。なので、ツイッターやWEBへの投稿を見ながら制作者の様子をうかがう場合もありましたが、いったい何を作っているのか、何をしているのかまったくわからない場合もありました。トルタバトン当日が初対面の方もいましたのでなおさらです。

終了時間になるとラボへ行き、部屋の様子の写真を撮り、WEBで報告します。そして、いつも同じ内容のインタビューを行いました。

それぞれの制作者による「トルタバトン」は、何が起きているのか、終了時にラボの扉をあけるときの何が出てくるのか、まったく予想がつかないという意味で、企画者にとってはたしかに「どこかへ飛ぶ」体験でした。またそれぞれの「ひらくと飛ぶ本」は、各制作者がこのテーマをどう理解しどのような表現に翻訳するかによって、オブジェや絵画の制作や執

筆、インターネットを介した外の世界とのインタラクティブなやりとりなど、さまざまなあり方を示しました。その中には、制作者の実感として、ひらくと飛ぶ本というテーマに対し「失敗した」試みから「事実上テーマに関係なかった」試みまで含まれます。

しかし『TOLTA 5』は、トルタバトンそれ自体ではありません。なぜなら、制作されたオブジェや、インターネットを介したライブや、その他の制作者の経験それ自体を、そのままの形で紙の中に入れることはできないからです。『TOLTA 5』はプロジェクト〈トルタバトン〉の記録であり、トルタラボで制作された作品をめぐる展示会場のようなものです。しかし同時に、この本の中で展開されているのは、特定の場所と時間のなかで制作された「ひらくと飛ぶ本」を、この紙の本のうえで、どのようにしてひらいて飛ばすか、という試みでもあります。

『TOLTA 5』は、トルタバトンから生まれ、あなたがひらくことによって飛ぶ本です。

<トルタバトン>

トルタバトンは、<ひらくと飛ぶ本をつくる>をテーマとして2011年5月からTOLTAが行ったプロジェクトである。詩人をはじめとしたいろいろなジャンルのクリエイターが、トルタが設定した場所（トルタラボ）に所定の期間滞在し、「ひらくと飛ぶ本」をテーマとして作品を制作した。

制作開始前、トルタバトンの制作者には、下記のようなルールが提示された。

- (1) 「ひらくと飛ぶ本」をテーマとして作品を制作すること。
- (2) 制作ジャンルは不問。ただし、場所が制限する事柄は行うことができない。
- (3) 滞在期間は原則24時間（1泊18時間）以上。2回以上に分けて滞在する場合も含め、合計60時間以内。
- (4) 制作はトルタラボ内および、ラボ所在地周辺で実施すること。
- (5) トルタラボ内ではひとりであること（ただし、ラボの外ではその限りでない）。
- (6) 終了後、可能であれば、次にトルタバトンに参加できる人を紹介すること。

開始時にはマニュアルが渡され、トルタラボ内部の説明が行われる。また各回の開始と終了は、Webサイト tolta.tumblr.com で告知、公開された。

プロジェクトには、最初に企画を提示した段階で参加した14人と、紹介を通じて参加した17人の、合計31人が参加し、2011年5月から2012年8月までの約15か月の間に、計34回の<トルタバトン>が実施された。

メニュー

【その1 トルタバトン [toltabaton](http://toltabaton.com)】

「トルタバトン」で制作された作品／行われた事柄を中心につくられたセクション。

(参加者)

カニエ・ナハ、田中淳一郎、小峰慎也、文月悠光、金子鉄夫、鈴木一平、小池唯徳、井上法子、カゲヤマ気象台、永澤康太、内海賢朗、アニユリズム、雪舟えま、久谷雉、山田航、森山和人、関口文子、プリングル、酒井一有、生野毅、菊井崇史、今唯ケンタロウ、吉田恭大、橘上、久石ソナ、得地弘基、星四朗、綾門優季、立川貴一、大崎清夏、生熊源一

【その2 「書物」についてのエッセイ・トーク】

四つの異なる視点から「書物」に接したエッセイ、トーク。

「スーパーブック銭湯」南谷奉良

「本がない！書店員→工場員日記（おつかい篇）」阪根正行

「人・書物・歴史とその残骸への愛を」梅田径

「ツアーパフォーマンスの記録は可能か——アートを書物にすること」田中みゆき

【その他】

「ガイドダンス「トルタバトン」から「TOLTA5」へ」河野聡子

詩「マラルメ」山田亮太

TOLTA 5

A 4判 120頁、フルカラー

定価 1500円

お求めは TOLTA ONLINE SHOP
toltaonline.com または

【都内委託書店】

(タコシエ (中野)、模索舎 (新宿))

【即売会】

第16回文学フリマ in 大阪
(2013年4月14日、堺市産業振興センター)

超文学フリマ

(2013年4月28日、幕張メッセ)

第2回福岡ポエイチ

(2013年6月8・9日
リノベーションミュージアム冷泉荘)
ほか

最新情報は Twitter @tolta2106 で

お問合せはメール

tolta2106@yahoo.co.jp まで